

ACT!

SPECIAL



1999年
ノーベル平和賞受賞

2024 Year in Review

2024年

国境なき医師団の活動

国境なき医師団が小児病棟を支援する
ヘラート地域病院の待合室で、兄に抱か
れる1歳の男の子。2023年11月以降、
重度の急性栄養不良の患者が急増して
いる。

／2024年1月、アフガニスタン

あなたの思いに支えられた1年。
感謝を込めて、2024年の活動を振り返ります。

2024年

国境なき医師団 (MSF) の活動

中東情勢が不安定化する中、世界各地で多発した暴力、感染症、自然災害……。1月1日に発生した能登半島地震では日本でも多くの人びとの命と健康が危機にさらされました。私たちがそうした現場へ今年もすぐに駆けつけることができたのは、思いを一つにしてくださる皆さまのご寄付のおかげに他なりません。心より感謝を申し上げます。今年の活動の一部を報告いたします。

通年 紛争下での医療

スーダンと周辺国

内戦激化で、家を追われた1000万人以上の人びと。人道援助の空白地帯となった、スーダンに医療を。

2023年4月に国軍と準軍事組織「即応支援部隊 (RSF)」の間で内戦が始まって以来、医療、食料などあらゆる人道危機がスーダン全土で深刻さを増しています。多くの援助団体が撤退し、支援を失った人びとがさらに苦しい生活を強いられる中、MSFは国内8州20カ所以上の医療施設で活動を継続 (8月30日現在)。難民や避難民も援助しながら、国際社会に援助の再開を要請しています。



スーダンとチャドの国境では子どもたちの栄養失調の検査やししかの予防接種などを実施。

患者さんの声

「9回の手術を経て、ようやく回復しています」

イクバル・ユシフさん

私たち家族は、銃声の中、着の身着のまま西ダルフールから逃げてきました。途中、姉が腹を打たれ、夫は頭を負傷しました。その後、甥を探すために一旦スーダンに戻りましたが、甥は既に亡くなっていた上、戦闘の混乱の中で今度は私が車にはねられてしまいました。MSFの病院に運ばれ、9回もの手術を受けて無事回復。歩く練習を始めたところです。



© Corentin Fohlen/Divergence

【主な活動実績】
(2024年1～6月)

外来診療件数
37万8211件

予防接種件数
4万997件

5月～ 災害緊急援助

ブラジル

ブラジル史上、空前の大規模水害。増水によって孤立する先住民に、医療と食料を提供。

4月末から続いた豪雨による洪水で、200万人以上が被災し、60万人が避難生活へと追い込まれたブラジル南部のリオグランデドスル州。多くの道路や橋、医療施設が破壊されて都市全体が水に沈み、各地で人びとが孤立している状況を踏まえ、MSFは医師、看護師、心理士、ヘルスプロモーターからなる移動診療チームを編成。最も支援の手が届きにくい先住民に焦点を当て、水や食料、医薬品などの提供と医療援助に奔走しました。



先住民が暮らす地域で、移動診療を提供するMSFのソエイロ医師。

スタッフの声

「訪問した地域は10日以上も援助がない状況でした」

医師 レイチェル・ソエイロ

何キロも何キロも水だけが広がる状況下では、ヘリコプターでしか行けない場所も多く、活動は困難を極めました。実は先住民たちはこの大洪水の前から、医療や物資の不足に直面していました。自然災害の現場においてこうした最も弱い立場に置かれた人びとに寄り添うことも、MSFが常に意識していることです。



© CMSF

通年 紛争下での医療

パレスチナ

やまない攻撃、届かない援助物資。崩壊の瀬戸際にある医療体制を支える。

イスラエルとハマスの戦闘の長期化に伴い、ガザ地区の人道危機はさらに深刻化しています。現地の保健省によると、9月22日現在の死者数は4万人超。住民の約90%が過密な環境下で避難生活を送り、栄養失調や感染症の流行が懸念されています。病院の多くが破壊され機能を停止する中、MSFはガザ地区での活動を継続。負傷者の治療や産科・小児科医療などに取り組んでいます。



ガザ地区で負傷した患者の容態を確認する、MSFの看護師と医療チームリーダー。

患者さんの家族の声
「瀕死の娘を助けてくれたMSFに感謝しています」

ハニンさん

戦争の前、自宅で暮らしていた頃の娘は元気いっぱいでした。でも、テントでの避難生活が始まり、水も食べ物も手に入らなくなって、娘は栄養失調に苦しむようになりました。ぐったりして動けなくなった彼女をカートに乗せて病院まで運ぶ間、私は生きた心地がしませんでした。いま、娘は快方に向かっています。MSFが娘を治療してくれたんです。

📺 現地レポートの動画を視聴できます



© Mariam AbuDagga/MSF

【主な活動実績】
(2023年10月～2024年9月末)

負傷者の治療
2万7546人以上

入院患者の受け入れ
1万4465件以上

2024 >>>

1月

2月

3月

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

2025 >>>

～1月 災害緊急援助

日本 (能登半島)

元日に発生した大地震から、避難生活の長期化へ。被災した人びとの心と体の健康を守るために。

1月25日、MSFは特に被害の大きかった石川県輪島市に「心のケア」チームを派遣。地震のトラウマや先の見えない避難生活により、心理的負担を抱える人びとのケアを開始しました。約23カ所の避難所を巡回し、「心のアンケート」や個別カウンセリングなどの取り組みを実施。さらに2011年の東日本大震災の活動で得た経験から、不眠不休で被災者支援に携わる自治体職員や地元医療従事者のカウンセリングも行いました。



避難所では「けんこう講座」を開催。ストレッチや脳トレなどを通して心理的ニーズを把握。

スタッフの声

「一人一人に寄り添い話に耳を傾ける」

臨床心理士 福島 正樹

地震などの災害を経験した後のレジリエンス (対応力、回復力) は個人によって異なります。人は孤立すると不安を抱えやすくなる傾向があるため、人と人との結びつきが大切。誰かに自分の胸の内を話せることが回復力へとつながっていきます。一人一人に寄り添い、話に耳を傾ける中でそれぞれのニーズを見つけ出し、必要な医療へとつなげていくことが大切です。



© MSF

～4月 感染症対応

ギニア

ジフテリアが30年ぶりに大流行。現地では治療法を知る医療者が不足。

世界から半ば忘れ去られていた感染症、ジフテリアが昨年から西アフリカの国々で大流行。過去30年以上、患者が出ていなかったギニアでも感染が一気に拡大しました。ジフテリアは小さな子どもにとっては命に関わる病気。薬も医療者も不足する中、MSFはシギリの感染症治療センターで大規模な対応を開始し、患者の治療と予防接種に取り組みました。



重症化すると、ジフテリア菌の出す毒素が心臓や神経にダメージを及ぼすことも。

© Andrej Ivanov/MSF

6月～ 感染症対応

コンゴ民主共和国

アフリカ全土へのエムボックス (旧称サル痘) の感染拡大を食い止めるために。

世界保健機関 (WHO) は8月、エムボックスがアフリカ諸国で急拡大していることを受け、緊急事態を宣言しました。2年以上前から流行が続くコンゴ民主共和国では、今年に入ってから状況が悪化。1月から9月2日までに630人以上が亡くなっています。6月中旬以降、MSFは複数の州で患者を治療し、ワクチン普及のための提言活動にも力を入れています。



MSFの看護師からエムボックスの検査の説明を受ける親子。

© Michel Lunanga

通年 紛争下での医療

ミャンマー

紛争の再燃により、治安状況が大幅に悪化。医療へのアクセスが絶たれた、少数民族を救うために。

2023年11月以降、西部のラカイン州ではミャンマー軍とアラカン軍の間で激しい戦闘が続き、何十万人もの人びとが安全を求めて避難しています。これまでMSFは、国内にとどまるロヒンギヤをはじめ、ラカイン州や北部のカチン州、東部のシャン州などに住むその他の少数民族にも医療を届けてきました。しかし厳しい移動制限や医療物資の輸送困難などにより活動を縮小または停止せざるを得ない状況です。私たちは事態が改善され次第、援助を拡大できるよう活動を継続中です。



ラカイン州シットウェのアウンミンガラー地区でMSFの移動診療所に集まる人びと。

スタッフの声

「ミャンマーの人びとに医療を受けられる環境を」

国境なき医師団日本事務局長 村田 慎二郎

現在、ミャンマーでは最大の都市ヤンゴンを含め、全国的に人びとが医療を受けにくい状況が続いています。背景にあるのは紛争に伴う治安の悪化と、政府による人びとの移動や物資の輸送などの制限です。特にラカイン州をはじめ武装勢力の支配地域では、最も弱い立場にある少数民族の住民が深刻な暴力にさらされ、医療・人道援助を必要としています。

📺 現地レポートの動画を視聴できます



© CMSF

/2024年3月、パレスチナ

(写真はイメージです)

祖国スーダンで起きた残忍な紛争から
逃れ、チャド東部のアプテンゲにある
キャンプに家族と共にたどり着いた
女性。抱いている赤ちゃんは、避難後、
MSFの緊急病院で出産した。
／2024年4月、チャド

あなたの
寄付で
できること

皆さまの思いと共に、2025年も命の危機の現場へ。

国境なき医師団 (MSF) は、いまこの瞬間も、これからも、全力で走り続けます。

外科治療用のガウン

外科手術の際に医療スタッフが着用する
ガウンを、9着用意できます。

3,000円で9着



© Marie Burton

はしかワクチン

子どもたちのためのはしかワクチン110回
分を用意できます。

5,000円で110回



© Candida Lobes/MSF

栄養治療食

重度栄養失調の子どもたちに280食の
栄養治療食 (RUTF) を提供できます。

10,000円で280食



© Natacha Buhler/MSF

緊急医療キット

避難民340人に3カ月間の医療を提供で
きます。

30,000円で340人分



© MSF

※いただいた寄付でできることの一例です。外国為替による変動があります。

ぜひチェック&
フォローしてください

国境なき医師団ウェブサイト
www.msf.or.jp



Facebook
@msf_japan



X (旧Twitter)
@MSFJapan



Instagram
@msf_japan



LINE
@msf_japan



YouTubeチャンネル
国境なき医師団



▶ 感謝のメッセージ動画を
お届けします

活動地から、支援者の皆さまへ。
MSFスタッフの思いを、
ぜひご覧ください。



スマートフォンから

寄付・ご登録情報に関するお問い合わせ

TEL 0120-999-199

通話料無料

(平日9:00~18:00/土日祝日・
2024年12月28日~2025年1月5日休業)

ご登録情報の変更は上記までご連絡いただくか、マイページ (右の二次元コード) で
お手続きください。

発行元: 特定非営利活動法人 国境なき医師団日本

〒162-0045 東京都新宿区馬場下町1-1 FORECAST 早稲田FIRST 3階



▲ 登録情報の
変更はこちら